

令和8年度 第1回学校運営協議会（学校・地域魅力化推進会議）【会議録（概要）】

1 開催日時 令和8年6月8日（月）午後2時00分～午後3時25分

2 会 場 宮古水産高等学校会議室

3 出席者

《学校運営協議会委員》

山根秀幸、清水大輔、大志田憲、小山田大助、加村亜季、早川輝、小関憲一、宮野恵子、菅野弘、根市弘子

《本校》

校長：谷地信治、副校長：田村崇司、牛崎芳恵、事務長：今野茂

総務課主任：畑川幸政、教務課主任：黒澤長、地域連携コーディネーター：新國碧、生徒指導課：伊藤匡一

進路指導課主任：熊谷俊哉、海洋生産科：福士智哉、食物科主任：小國ちかり、記録：（総務課）宇部祥平

【次第】

1 開会

2 校長挨拶

委員の皆様には、日頃から本校の教育活動に対し、御支援と御協力をいただき心から感謝申し上げます。

本年度は、新入生本科33名（海洋生産科11名、食物科22名）、専攻科漁業科5名を迎え、全校生徒107名でスタートしており、2ヶ月が過ぎたが、概ね順調にスタートしたと捉えている。

4月20日（月）に発生した地震により津波警報が発令された際、学校に残っていた生徒及び教職員50名ほどが、河南中学校に避難した。ちょうどその1週間前に津波警報発令時を想定した避難訓練を実施しており、訓練を生かし落ち着いて無事避難をすることができた。今後も、生徒及び教職員の安全確保に努めたいとの思いをあらたにしたところである。

本日は、日頃、本校に対し感じていることや期待することなどについて、忌憚のない御意見や御助言をいただきたい。

3 学校運営協議会委員紹介

4 会長及び副会長選出

会長に加村亜季氏、副会長に菅野弘氏を選出

5 学校概況説明等

（1）令和8年度学校経営計画について

・校長から説明

（2）本校の進路指導について

・進路指導主事から説明

（3）本校の地域連携について

・海洋生産科主任、食物科主任、地域連携コーディネーターから説明

（4）本校のいわて留学（県外生徒募集）について

・副校長から説明

6 意見交換（本校に対する意見・提案等）

【委員】

・制服の着こなしの乱れが学年が上がるにつれみられる。一方で、太鼓部が休日も含め熱心に活動しており、今後も継続して頑張してほしい。

【委員】

- ・学校再編の中で、宮古水産高校は本県の水産業を支える人材育成の拠点として重要な役割を担っている。宮古水産の魅力化発信について、近くにある中学校として一緒に考えて取り組みたい。

【校長】

- ・4月に実習船を見学した。体験乗船で魅力発信していければと考えている。そして少しでも入学する生徒数を増やしたいと思っている。

【委員】

- ・探究についてどのように進め、どのくらい行っているのか。

【教務主任】

- ・探究の代替として課題研究を週3時間設定している。地域の課題を洗いだし取り組んでいる。

【委員】

- ・課題を与えたものはできるが、与えられなかった場合どのようにすすめられるか、小学校段階から育てていきたい。

【委員】

- ・いわて留学（地域みらい留学）では、どのくらい入学しているのか。

【副校長】

- ・定員の10%を募集枠としている。今年度は海洋生産科に2名、食物科に1名が県外から入学している。

【委員】

- ・食に対する興味はクッキング教室をとおして形成される場合もあると感じている。今後もクッキング教室をとおして様々協力したい。

【委員】

- ・重点目標「地域と連携・協働をはかり、地域の担い手を育てる」を今後も継続してほしい。しかし、地域と連携というが、教員と地域が接する機会が少ないと感じる。積極的に行事に参加してほしい。

【委員】

- ・1年目の離職率の話題があったが、1年に限らず、2年・3年後くらいまで継続調査した方がいいのではないか。

【委員】

- ・宮古水産の昔のイメージはあまり良くない印象だが、実際に生徒と関わるととても素直でいい子が多い。学校の印象がよくなるように地域に開かれた学校作りにつとめてほしい。

【委員】

- ・地域と関わる機会を増やしていきたいとは具体的にどのようなことか、要望等あれば教えてほしい。

【地域連携コーディネーター】

- ・生徒は情報を得る手段はインターネットだけのことが多い。教員も地域の人材を全て知っているわけではないので、協力していただけるとありがたい。

【委員】

- ・いわて留学で入学した生徒の卒業後や進路に興味を持った。出口のイメージが作れるとより効果的な生徒募集につながると思う。

【委員】

- ・就職率については県内・管内の企業の受入れや魅力を伝えるなど両者の協力が課題と思われる。

【委員】

- ・今年度の教育実習生は本校の出身か

【教務主任】

- ・本校の卒業生ではなく、関東出身の学生である。

【委員】

- ・県内の水産教育を集約するにあたり、水産教員の育成という視点も重要である。実習交流の経験から水産分野への進学につながった事例もある、今後も実習や出前授業等連携したい。

【校長】

- ・継続して考えていかなければならない。

【委員】

- ・漁業を絡めた実習、実習船を使った授業などを行い、もっと水産高校をアピールしてはどうか。長期休業中に漁業の体験を含めたアルバイトで水産への興味をもってもらいたい。

【副校長】

- ・昨年度、漁業体験のアルバイトの募集を呼びかけたところ、すぐに定員は埋まる状況だった。

【委員】

- ・今後水産関係のアルバイトをしたい生徒がいれば対応したい。

【委員】

- ・小学生を対象とした活動が少ない。もう少し増やして宮古水産高校に入学したいと思う気持ちを育てられるのではないかな。

7 その他

【副校長】

- ・次回、第2回は令和9年2月9日（火）に開催予定、期日が近づいたところで正式案内を送付する。
- ・資料の事前送付等のため、連絡先の情報を提供していただきたい。

8 閉会